

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	117人	算数	117人	理科	116人
第5学年	国語	133人	算数	133人	理科	133人

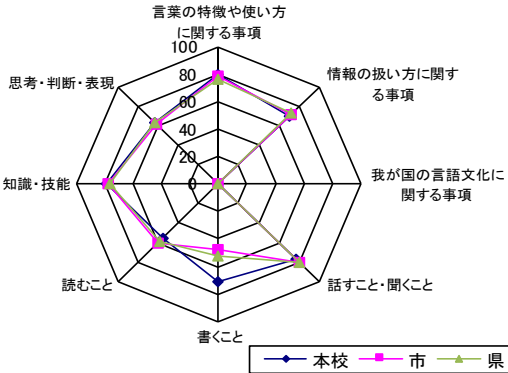
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.6	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	70.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	76.6	81.0	81.1
	書くこと	70.6	47.2	52.8
観点	読むこと	55.0	60.5	59.3
	知識・技能	78.7	78.0	76.5
	思考・判断・表現	64.3	62.3	63.1



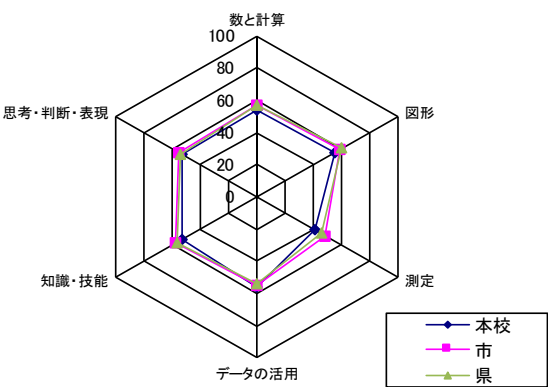
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも2.7ポイント、市よりも1ポイント上回った。 ○「漢字を正しく書く」「主語と述語の組み合わせ」「ローマ字とその読み方の組み合わせ」に関する正答率は、県や市の平均よりも高い結果となっている。 ●「漢字を正しく読む」に関する問題の正答率は、県や市の平均よりもやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの能力を高めるため、授業や宿題などでドリルやAIDリルを活用し、継続して問題に取り組むことができるようにする。 ・他教科の学習においても、既習の漢字については、ひらがなではなく漢字で書くように指導することで、漢字で書き表すことに慣れることができるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県よりも2.3ポイント、市よりも1.4ポイント下回った。 ●「国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうか」の設問では、市や県の平均をやや下回っており、また正答率も7割と低くなっている。	・国語辞典の単元の学習後も国語科における様々な単元や、他教科の授業において積極的に国語辞典を活用して、自身の課題解決につなげていくことができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県よりも4.5ポイント、市よりも4.4ポイント下回っている。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」に関する正答率は、県や市の平均正答率と同等の結果となっている。 ●「話し方の工夫を捉える」「参加者の発言を基に考えをまとめる」「自分の考えを理由を挙げながら話す」に関する問題の正答率は、県や市の平均正答率を下回っている。	・自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話す力を身に付けさせるために、国語科に限らず、各教科において自分の考えを伝え合う時間を意図的に設ける。 ・友達の発表において、よい点を問いかけることを通して、発表の工夫にも気を付けて話を聞くことができるようにする。
書くこと	平均正答率は、県よりも17.8ポイント、市よりも23.4ポイント上回った。 ○「指定された長さで文章を書くことができるかどうか」をみる設問では、県の平均よりも19.6ポイント、市の平均よりも25ポイント上回っている。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうか」をみる設問では、県や市よりも平均正答率は上回っているものの、正答率は54%と低くなっている。	・朝の学習の時間を利用して、短いまとまりの作文を書く活動を継続的に行っている。その結果、文章をまとめる際に必要な条件を踏まえて作文を書く力が育ってきている。この取組を今後も継続していきたい。 ・各教科等で、自分の考えをまとめる際に、段落の構成を指定するなどして、条件を付けた状態で書くことに取り組むことで、条件を踏まえた作文にさらに慣れることができるようにしたい。
読むこと	平均正答率は、県よりも4.3ポイント、市よりも5.5ポイント下回った。 ○「場面の様子について叙述を基に捉えることができるかどうか」をみる設問については、他の設問よりも平均正答率は高くなっている。 ●「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかどうか」をみる設問では、県の平均よりも8.6ポイント、市の平均よりも10.3ポイント下回っている。	・朝の読書活動を推進したり、読み聞かせの時間を活用したりすることで、物語や説明文に親しむ機会を増やしていく。 ・場面の様子を読み取ったり、文を要約したりする学習では、どうしてそう思ったか等を、叙述を基に説明できるように指導したり、友達の考えに対して感想を伝え合ったりすることで、読む力を高めていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.6	57.4	56.9
	図形	55.5	58.7	60.1
	測定	41.7	48.1	45.7
	データの活用	56.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	52.4	56.6	56.2
	思考・判断・表現	52.2	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

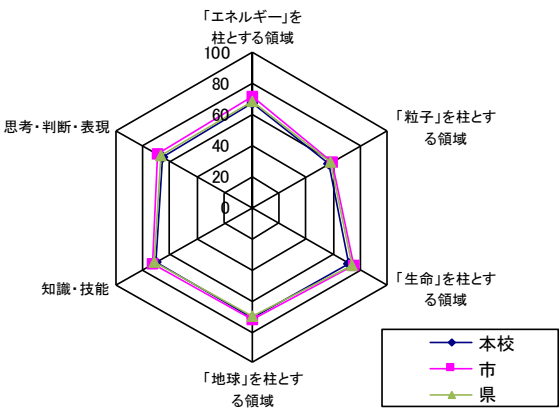
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の正答率を3.3ポイント、市の正答率を3.8ポイント下回った。 ○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ設問では、市の正答率を0.3ポイント、県の正答率を1.6ポイント上回った。 ○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える設問では、市の正答率を5ポイント、県の正答率を4ポイント上回った。 ●同分母の分数のひき算について、計算のしかたを説明する設問では、市の正答率を9.6ポイント、県の正答率を10.2ポイント下回った。 ●余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する設問では、市の正答率を7.5ポイント、県の正答率を8.3ポイント下回った。	・既習事項を家庭学習や一人一台端末でのドリル学習などを活用し、習熟を図る。 ・授業の計算の仕方を説明する活動においては、計算の仕方について考える時間を十分にとるとともに、考えたことをノートやワークシートに記述する機会を意図的に取り入れていく。 ・授業の中で、自分の考えた計算の仕方や、答えの求め方について、少人数グループ活動を取り入れ説明する機会を多くとるようにする。 ・類似の問題に取り組むことで、記述式の回答になれることができるようにする。
図形	平均正答率は県の正答率を4.6ポイント、市の正答率を3.2ポイント下回った。 ○二等辺三角形になる点を選ぶ設問では、市や県の正答率と同程度の77.2%の正答率だった。 ●球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ設問では、市の正答率を9.2ポイント、県の正答率を13.5ポイント下回った。	・円や三角形などデジタル教科書や掲示物などを活用して具体的に掲示し、思考を整理しながら問題に取り組めるようにする。 ・立体図形の学習では、実物を用いて行うなど、体験学習を多く取り入れることで、平面で切った時の切り口の形などをイメージできるようにする。
測定	平均正答率は、県の正答率を4ポイント、市の正答率を6.4ポイント下回った。 ○単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらのほうが短いか説明する設問では、正答率が51.8%で、県の正答率を0.1ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読み取り、重さを考える設問では、市の正答率を14.9ポイント、県の正答率を9.3ポイント下回った。	・算数の学習に限らず、日常生活や社会科、理科などの他の教科の学習でも、時間を推察し考える活動を取り入れていく。 ・重さの学習では、身近なものの重さを実際に測ったり、目盛りを読むなど、体験的な学習を多く行うことで、理解を深められるように指導していく。 ・類似した問題に取り組むことで、問題に慣れさせ回答率を上げることができるようにする。
データの活用	平均正答率は、県の正答率を1.8ポイント、市の正答率を1.2ポイント上回った。 ○二次元の表から読み取ることができる、正しい傾向を選ぶ設問では、市の正答率を3.1ポイント、県の正答率を2.5ポイント上回った。 ●二次元の表の合計欄に当てはまる数を答える設問では、市の正答率を1.3ポイント下回った。	・総合的な学習や、社会科、理科などの学習でも、目的に合った表やグラフを選択したり、どうしてその表やグラフが効果的なのかを説明することができるように類似の問題に取り組ませる。 ・様々なグラフを読んだり、必要な情報を正確に選んだりする体験的な活動を多く取り入れることで、習熟を図っていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	57.2	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	71.7	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	70.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○実験の結果から変化を読み取ったり、明かりがつく電気の通り道について見分けたりすることがよくできており、授業を通して実際に確かめたことは理解している。 ●実験をさらに進めていくと、結果がどのように変化していくかを推測し、記号で選ぶ点が課題が身える。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の目的を明確に示した上で、自分で予想を立てて実験を行う経験は、学習への意欲が高まり、理解も深まることから、今後も実験を通じて新しい発見や気づきにつながる内容を工夫していきたい。 ・予想を立てることや結果を考察することに十分な時間をかけ、実験の結果をもとにその先の変化についても考えさせたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○物質の比重に関する平均正答率は、県や市の平均と4～5ポイント上回っているが、40.9%と低い正答率である。その他の問題に関しても全て4～5ポイント下回っている。 ○物の重さを同じしても、材質の種類が異なれば、重さも変わること理解しており、正答率も8割を超えている。 ●県や市の平均を上回っているが、同じ重さで材質の種類が異なる物の比べた時、体積の大きさも違うことを理解している児童の割合が半数に満たない。	・具体物を使つての比較実験や観察を多く取り入れることで、実験結果を推測したり、応用して事象を説明できるようにしていきたい。 ・学習したことを身の回りで起きている様々な事象と結び付け、一人一人が体験を積み重ねることで、理解を深めさせたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県や市の平均とほぼ同じである。 ○モンシロチョウの育ち方や体のつくりなど、実際に実物の観察を通して、自分の目で確かめたことは定着率が高い。 ●モンシロチョウと他の生き物を比べた時、育ち方の違いを記述で説明したり、正しい文章がどれか選ぶ問題での課題が見られる。	・今後も、実物を用いた観察を通して、その時々の変化だけでなく時系列な変化にも着目させながら記録を取らせるようにすることで、その生物に興味関心をもたせるとともに、生命の意味に迫るようにしていきたい。 ・写真や映像を活用したり、話し合いながら違いを見付けけるような時間を取り入れたりすることで、実際に観察したことを自分の言葉で説明できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県や市とほぼ同じであるが、6ポイント低い正答率の問題がある。 ○方位磁針の正しい使い方は県や市の平均よりも上回っているため、様々な場面で正しく使用していることが分かる。 ●温度計の正しい使い方や、日なたと日陰の地面の温度を予想させる問題に課題が見られた。	・今後の実物を用いた観察・実験を通して理解を深められるようにしたい。 ・実際に道具や用具を使用する際は、正しい使い方を身に付けられるように丁寧に指導していく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」や「家で、授業の予習復習をしている。」などの家庭学習についての肯定的回答がいずれも県の平均を上回っていることから、家庭学習の習慣が身に付いていることが分かる。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある。」の肯定的回答は87.5%で、県の平均を5.2ポイント上回っている。今後も児童の興味関心をもてるような授業展開を工夫していきたい。

○「将来の夢や目標をもっている。」の肯定的回答は93.3%で、県の平均を3.3ポイント上回っている。本校の取組として児童の夢を掲示する「ドリームカード」や教育相談で「どんな人になりたいか」について話す時間を設けていることにより、高い結果となったことが考えられる。今後もキャリア教育を通して夢をもつことの大切さや将来について考えることの大切さを伝えていきたい。

●「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書いてある。」の肯定回答は、県平均の6.1ポイント下回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の肯定回答は、県の平均を8.8ポイント下回っている。授業中の目標を児童に意識して授業に臨めるよう、言葉で意識付けを行ったり、視覚的に分かりやすくしたりする必要がある。また、学習の振り返りもしっかりと行い、学習の目標と合わせながら、何を学んだのか分かるような振り返りが行えるようにしたい。

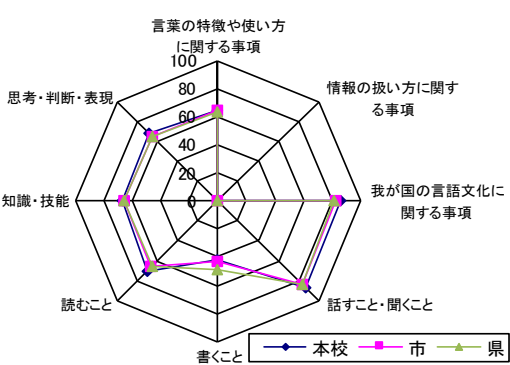
●「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」と肯定回答は、県の平均を7.7ポイント下回っている。日々の授業の中で、話す・聞く態度について繰り返し指導をしたり、話し合いの活動を多く取り入れてたりすることで、考えを伝え合うことに慣れさせていきたい。

●「ふだん1日当たりどれくらいの時間ゲームをしますか。」の回答について、4時間以上と回答した児童は、県平均より4ポイント上回り、3時間以上4時間未満と回答した児童は2.3ポイント上回っている。タブレットの使用やゲームをするきまりなど、家庭のご理解とご協力を得ながら、学校では情報モラルについての指導を行っていき、トラブルに巻き込まれないように支援・指導を行っていく必要がある。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.4	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	86.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.2	83.3	83.4
	書くこと	42.3	42.8	48.2
観点	読むこと	71.0	66.1	65.1
	知識・技能	67.5	66.5	65.9
	思考・判断・表現	67.9	64.6	65.5



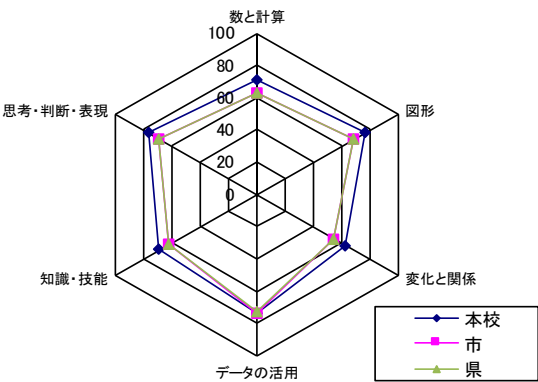
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、県より1.3ポイント、市より0.7ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読む設問は、全体的に正答率が高かった。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうか見る設問では、県や市も低い、正答率が20ポイント未満であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み方や熟語について理解を深めるために、朝の学習などの時間に、ドリルやプリントなどを活用し繰り返し練習する時間を設ける。 ・既習の漢字を活用することができるようにするために、国語科の学習だけでなく、文章を書く活動の際には漢字を使うよう意識させる言葉掛けをする。 ・語彙を広げるために、読書や読み聞かせの機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県より4.7ポイント、市より3.5ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかについての設問では、平均を上回る80%以上の正答率であった。また無解答者もいなかった。	・言語文化に親しみをもたせるために、日常生活の中でことわざ等を用いて自分の表現ができるように指導したり、図書資料を活用したりすることで、言語に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均を4ポイント程度上回っている。 ○話し合いにおいて、話し手の工夫を捉える問題では、90%以上の正答率であった。 ●話し合いにおいて、発言の考えをまとめられるか、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめられるかを記述で答える問題では、それぞれ11%、5%の児童が無回答であった。	・話し合いにおいて自分の考えをもてるようにするために国語科だけでなく、様々な場面で、他の考えの共通点や相違点に着目しながら話を聞けるよう指導していく。また、自分の考えを発言したり、書いたりする機会を多く設定していく。 ・話すこと聞くことについて、国語科で学んだことを活用できるようにするために、学級活動などにおいて、司会役を決めるなどして、話し合う場面を意図的に設定していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同等であるが、県の平均を6ポイント程度下回っている。 ○内容の中心を明確にして事実を伝える文章を書く問題では、市や県の平均を上回っている。 ●無回答率は、市・県を下回るものの25%あった。	・書く力を伸ばすために、国語科以外の教科の授業においても、キーワードを提示し学習のまとめを書いたり、授業の振り返りを書いたりする活動を設定し、考えて文章を書く活動に慣れるようにしていく。また、文章の書き方を指導した上で、学校行事の後に作文を書いたり、週末に作文を書く課題を出したりして、書くことへの意欲を高めていく。
読むこと	平均正答率は、市・県を5ポイント程度上回った。 ○物語の文章を読んで理解したことについて感想や考えをもつことができるかの問題の正答率は、県や市の平均を10ポイント程度上回っている。 ●物語の登場人物の気持ちを具体的に想像する問題の正答率は、市・県を上回ってはいるものの40%程度の正答率であった。	・物語の内容を読み取る力を高めるために、登場人物の気持ちを具体的に想像したり、登場人物の気持ちの変化を読み取る学習課題を設定したりしていく。説明文を読み取る力を伸ばすために、文章全体の構成を理解すると同時に、叙述を基に内容を正確に捉えたり、情報と情報の関係を理解したり、中心となる言葉や文章を見付けて指定された条件で要約したりする学習課題を設定していく。 ・学校図書館を活用し、朝の時間などにおいて、様々な文章に触れる機会を多く設定することにより、読む力を伸ばしていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	63.0	63.3
	図形	76.8	69.2	68.3
	変化と関係	63.3	54.8	55.0
	データの活用	73.6	73.1	72.3
観点	知識・技能	68.7	62.3	62.1
	思考・判断・表現	76.0	68.7	68.7



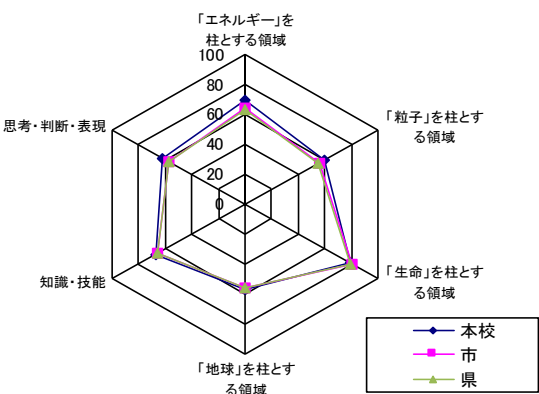
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県よりも7.8ポイント、市よりも8.1ポイント上回った。 ○もとにする小数の大きさを比べる設問や、数直線上の分数を読み取ったり、帯分数の意味を理解したりする設問の正答率は県や市の平均正答率を上回った。 ●大きい数のしくみについての設問では、県や市の平均を上回っていたが、40.2%と課題が残った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本の徹底を図るために、個々の実態に応じた授業の形態を工夫する。 ・計算ドリルやAIドリルなどを活用しながら、確実に計算ができるよう繰り返し問題に取り組めるようにする。 ・式の意味を正しくとらえる問題については、問題に合った図や文章が分かるよう応用問題に取り組ませる機会を設けて問題に慣れさせたい。
図形	平均正答率は、県よりも8.5ポイント、市よりも7.6ポイント上回った。 ○三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせた角の大きさを求める設問では、県や市の平均正答率を10ポイント程度上回った。 ●ものの位置の表しや位置を考える設問の正答率は県や市の平均正答率を上回ったが、無回答率が高い傾向にあった。	・基礎が身に付いているので、さらに力を伸ばせるよう、AIドリルなども用いながら、引き続き繰り返し問題に取り組めるようにする。 ・図や式を用いながら、考えたことを説明したり、発表したりする機会を積極的に設ける。
変化と関係	平均正答率は、県よりも8.3ポイント、市よりも8.5ポイント上回った。 ○伴って変わる2つの数量関係を読み取り、式に表す設問の正答率は県や市の平均正答率を10ポイント程度上回った。 ●割合を使った比べ方について説明する設問について、正答率は県や市の平均を上回ったが、無回答率が高い傾向にあった。	・平均正答率は大きく上回ったが、無回答率が市や県よりも高い傾向にあるため、空欄の中に言葉を入れて、自分の言葉で書くような成功体験を積み、自分から書く習慣を身に付けていく。 ・普段の生活の中で、重さや距離、量について考えたり、イメージする機会を多くもつようにしていく。
データの活用	平均正答率は、県よりも1.3ポイント、市よりも0.5ポイント上回った。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフを読み取る設問の正答率は県や市の平均正答率を上回った。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る設問や、二次元の数の意味を読み取る設問では、平均値を下回った。	・折れ線グラフや二次元の表についての問題は、4問中3問が平均値を下回ったため、グラフや表に特化した問題やAIドリルなどを活用し、繰り返し問題に取り組めるようにする。 ・算数だけではなく、社会や理科などの学習でもグラフや表などを活用し、日頃からグラフや表に慣れる活動を増やしていく。

宇都宮市立石井小学校【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.1	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	59.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	79.1	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	57.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	66.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県や市よりも5ポイント以上上回っている。 (昨年度は5ポイント下回っていた。) ○「電気のはたらき」において、正しい回路のつなぎ方や電流の向きを問う設問で、校内の正答率が県や市の正答率よりも7ポイントも上回っていた。○簡易検流計の針の動きから電流の大きさと向きを正しく読み取る設問では、校内の正答率が県や市よりも9～11ポイント上回った。 ●「電気のはたらき」において、つなぎ方の名称を答える設問では、校内の正答率が県や市の正答率よりも3ポイント下回った。(昨年度は16ポイント下回っていた。)	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験後の結果のまとめの際に、用語についても丁寧に扱い、用語を用いて自分の言葉でまとめることができるように指導する。 ・学習で登場した用語や名称を、知識としてしっかり定着させられるよう、プリント等を使ってくりかえし学習する機会を確保していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県や市よりも4ポイント上回っている。(昨年度は2ポイント下回っていた) ○コの字型の金属の温まり方を問う設問に関しては、校内の正答率が県の平均正答率を3ポイント上回っていた。 ○水の温まり方を適切にまとめた考察を選ぶ設問では、校内の正答率が市や県の正答率よりも5ポイント上回った。 ○水を冷やしたときの温度変化について、予想を基に構想する設問においては、校内の正答率が県や市よりも16ポイント上回った。 ●つぶれたピンポン玉を温めると元に戻せたり、空瓶に1円玉を載せた空瓶を温めると1円玉が動いたりする現象を気体の熱膨張と関連させて回答させる設問では、校内・市・県とも正答率は30ポイント前後と低くなっている。	・自らの予想や仮説をもとに実験結果を作成し、児童一人一人が実験結果を見通す活動を引き続き丁寧に行っていく。 ・学習したことを身の回りで起きている様々な事象と結び付けたり体験させたりすることで、理解を深めさせるようにする。 ・日常の様々な現象に、経験値が生かされるよう、日常的に様々な視点でものを見る習慣づけを強化していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市よりも1ポイント下回っている。 ○「生き物の冬越し」についての問題では、校内の正答率が県や市を2ポイント上回り、約91ポイントの高い結果となった。(4年時の学習では、生き物の冬越しについて調べ学習や校内探検など、丁寧に取り組んでいる。) ●「骨のはたらき」を説明した文章をすべて選ぶ問題は、骨の動きまで含むか否かの微妙な表現の表記もあり、県・市・本校とも40ポイント台の低い正答率となっている。	・1年間を通し、継続した観察を丁寧に行うことで、季節による生き物の変化がよく理解できるようにする。 ・児童が得た知識を図や模型などを使って具体物の操作するなど、実体験を通して理解する機会を確保し、さらに知識の定着を図っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市と同程度である。(県よりは1ポイント上回っている) ○「1日の気温の変わり方」を示したグラフを正しく読み取る設問では、校内の正答率は県や市の正答率を12～14ポイント上回っていた。(昨年度は6.4ポイント上回っていた。) ○月の位置の変化について理解しているかを問う設問では、校内の正答率が県や市のよりも5ポイント上回った。 ●水が水蒸気になって空気中に消えていく現象の名称(蒸発)を問う設問では、校内の正解正答率が県や市のよりも12ポイント下回った。	・温度によって変わる物質の三態には丁寧な実験と説明を大切に、蒸発や結露、水蒸気や湯気の違いなどをじっくり判別する機会を重視し、それぞれの条件の違いも含め、理解が深まるよう、展開を工夫していく。 ・繰り返し類似した問題を解かせることで、知識の定着を図る。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問に対する肯定的回答割合は、どちらも市の平均を上回っている。また、平日の家庭学習の時間が1時間以上である児童の割合も、県の平均より8.6ポイント多い。家庭学習の大切さを理解し、習慣化がうまく進んでいると考えられる。

○「算数の学習は、しょう来的のために大切だと思う」の質問に対する肯定的回答は97%と高く、県の平均を8.7ポイント上回っている。「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている。」の肯定的回答は84.2%で、県の平均と同程度であった。このことから、生活に結び付けて考えるなどして、今後も指導の充実を図っていきたい。

○「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」という質問に対して、「持っていない」「1時間未満」という回答が80.4%で、県の平均より8.7ポイント上回っており、時間を決めて電子端末を利用できていることが分かる。「しょう来的のゆめや目標をもっている」の肯定的回答は94%と非常に高く、市の平均より4.9%上回っている。将来に対するビジョンをもって生活できているので、実現できるように日々指導をしていきたい。

●「学校の宿題はやりたくない内容だ。」の質問に対する肯定的回答は49.6%と低く、県の平均よりも10ポイント低い。「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の質問も、肯定的回答が市の平均を10.2%下回っていることから、学習における主体性に課題があると考えられる。授業において、実生活や児童の関心が高いものと関連させながら学べるようにすることで、知る楽しさを味わえるようにしたい。

●「早ね、早起きを心がけている。」という質問に対する肯定的回答は71.4%で、県の平均よりも5.3ポイント低い。規則正しい生活を送る意識にやや欠ける。また、「自分の行動や発言に自信をもっている。」という質問に対する肯定的回答は52.7%で、県の平均よりも8.7%も低い。自己肯定感が高められるように、励ましの言葉をかけるとともに、自分の行動に自信をもてるように具体的な行動についても認め称賛するような支援をしていきたい。

●「国語の学習は、しょう来的のために大切だと思う。」という質問に対する肯定的回答は96.2%と高く、県の平均とほぼ同等であったが、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」という質問に対する肯定的回答は70.7%で、県の平均を9.7%下回っている。学習の中で根拠をもって考えられるように、考える機会や時間をとることで児童が自主的に取り組んでいけるよう指導の充実を図っていきたい。

宇都宮市立石井小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多様な考えを認め合いながら、自己の考えを深める活動の工夫	・ペアや少人数での考えを伝え合う活動を各教科で取り入れている。 ・各教科の授業の終末において、自分が達成できたことや、今後の課題について振り返る時間を設定している。	・「授業であつかうノートには、学習の(めあて・ねらい)とまとめを書いている」という設問では、肯定的回答の割合が8割を超えている。 ・「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」という設問の肯定的回答率は学校全体でみると、市や県の平均を下回っており、課題が見られる。 ・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」という設問の肯定的回答率は7割程度となっており、市や県の平均よりも下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「友達の前で自分の意見を発表することが得意である」や「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と答えた児童の割合が、県の平均よりもやや低くなっている。自分の考えをもつことはできているが、さらに自分の考え自信をもって伝えることや、友達の意見を最後まで聞いて考えることなどに課題が見られる。	・様々な意見を知ること、自分の考えを深められることを実感できるように、互いの考えを共有する時間を各教科で意図的に取り入れていく。	・児童一人一人が主体的に学び、振り返りを次の学びをつなげていくことができるようにするために、授業の導入から、意欲がもてるような工夫をし、児童自ら学習のめあてがもてるようにしたい。 ・様々な教科において、児童自身の課題解決のために話し合い活動を積極的に取り入れたい。また、自分とは違う意見も大切にし、認め合うことの大切さも繰り返し指導していく。